

外為マンスリーレビューI 北米編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/05/01

新規テーマ探し

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	<p>新たなリスク要因に警戒しつつ</p> <p>予想レンジ: 100.000 ~ 104.500 円</p>	2 - 3
<u>カナダ/円</u>	➡	<p>相場の分岐点に</p> <p>予想レンジ: 91.200~95.700円</p>	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



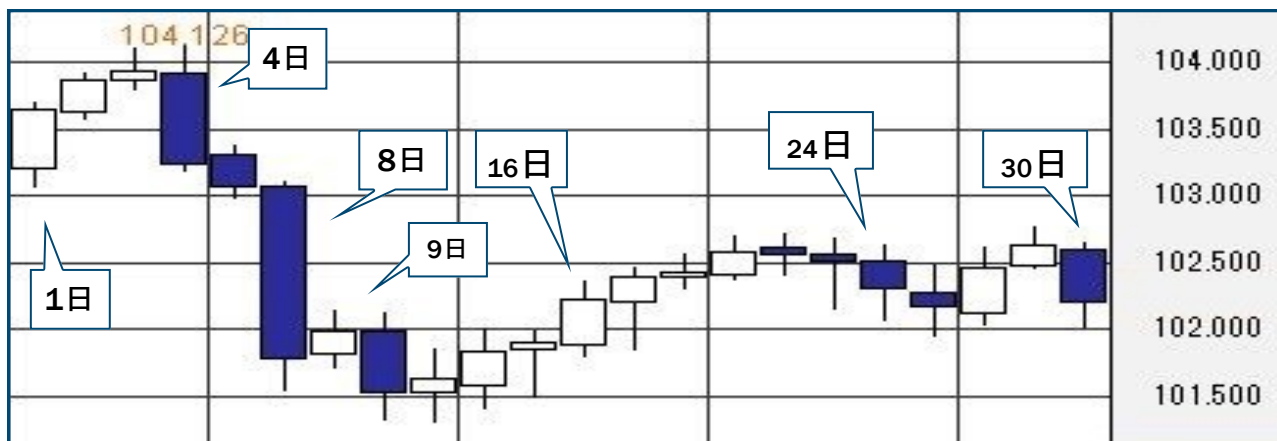
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	103.211円	104.126円	101.327円	102.221円



1日	NYダウ平均の堅調推移を背景にジリジリと上昇。さらに、日経新聞が電子版で「公的年金を運用する年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)は高収益の日本株を組み込んだファンドへの投資を始める」と報じ、日経平均先物が上昇すると、ドル/円も上値を切り上げ、103.710円まで値を伸ばした。
4日	米雇用状況の改善期待から、ドル/円は発表直前に104円台に上昇。その後発表された米3月雇用統計は、失業率が6.7%と予想(6.6%)を上回り、非農業部門雇用者数は19.2万人増と予想(20.0万人増)をわずかに下回ったことから、103.464円まで急落。ただ、前月分が17.5万人増→19.7万人増に修正された事や、労働参加率が63.2%(前月:63.0%)と上昇したことから、一転して104.126円まで反発するなど、値動きの荒い展開。この乱高下一服後、米利上げ開始時期が後退するのではとの見方が広がり、米長期金利が低下すると、ドル/円は103.197円まで失速した。
8日	日銀は金融政策据え置きを発表。黒田日銀総裁がその後の会見で「追加緩和は現時点で考えていない」「従来同様、2%の物価安定目標の実現に確信持っている」「14年度終わりから15年度にかけ物価2%の可能性高い」と述べるとドル/円は下落。米長期金利の低下も押し下げ要因になった。
9日	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録において、「メンバーのうち数人は、(経済・金利の)予測が利上げペースを過剰に示すと指摘した」「インフレ予想に対するリスク、メンバー5人は下向き、1人は上向きと認識」との内容となった。米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長がFOMC後の会見で述べたような、利上げを開始する時期である量的緩和終了後の「相当な期間」を6カ月程度とするくだりが議事録にはなかったことから、市場は早期利上げの可能性が後退したと判断。これにより、ドル/円は一時失速。ただ、NYダウ平均が同議事録を受けて上昇すると、ドル/円も値を戻した。
16日	麻生副総理兼財務・金融担当相が「GPIFが6月から動くので、外国人投資家が動く可能性がある」と発言したことや、中国1-3月期国内総生産(GDP)が前年比+7.4%と市場予想(+7.3%)を上回ったことを受けて高寄りした日経平均が一段高になる中、ドル/円も上昇した。
24日	「ロシア国防相、ウクライナ国境付近での新たな軍事演習を命令」などと報じられたことからウクライナを巡る不安が強まると米長期金利が低下。ドル/円は102.089円まで失速した。
30日	日銀の展望レポートで2014年度の実質GDP見通しが下方修正された(+1.4%→+1.1%)ことを受けて弱含むも、黒田日銀総裁会見を波乱なく通過すると小戻し、米4月ADP全国雇用者数が22.0万人増と市場予想(21.0万人増)を上回ると、ドル買いで反応したが、その後に発表された米第1四半期GDP・速報値が前期比年率+0.1%と市場予想(+1.2%)から大幅に下ブレしたことを受けて軟化した。なお、米連邦公開市場委員会(FOMC)では量的緩和規模の100億ドル縮小(450億ドルへ)が発表されたが、市場予想通りだったことから大きな反応は無かった。

USD / JPY

今月のポイント

4月のドル/円相場は101.327～104.126円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.0%の下落(ドル安・円高)となった。

ドル/円は、月初こそ早期利上げ観測を背景とするドル買いによって104.126円まで上昇したものの、その後は「強過ぎない」米雇用統計を受けた早期利上げ観測の後退を背景とするドル売りや、黒田日銀総裁が追加緩和について「現時点では考えていない」としたことを受けた円買いなどによって失速。とはいえ、101円台前半では底堅い推移。その後は手掛かりとするメインテーマ不在の中で概ね102円台での方向感のない取引が続いた。

目下のところ、テーマ不在の相場が続いている。米国・日本双方において金融政策の近い将来の変更期待が薄れており、主体性にも乏しい状態で、経済指標に対する反応も限られている。市場は次の材料を待っている状態と言えよう。ウクライナを挟んでのロシアとその他先進国の対立激化や、その他リスク要因が浮上したり、主要国株価が暴落して日銀の追加緩和を市場が要求するような展開になるなど、市場の空気を一変させるようなきっかけがない限り、ドル/円の膠着感の払拭は難しいかもしれない。

可能性は低いですが、仮に上記のようなリスク要因が具現化した場合、ドル/円は下値を試すものとみられる。その場合の下値目途としては、200日移動平均線(執筆時点:100.947円)に注目したい。同線前後で下げが止まらないような事態になった場合は、100円割れも想定しておくべきだろう。(石川)

(予想レンジ:100.000～104.500円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

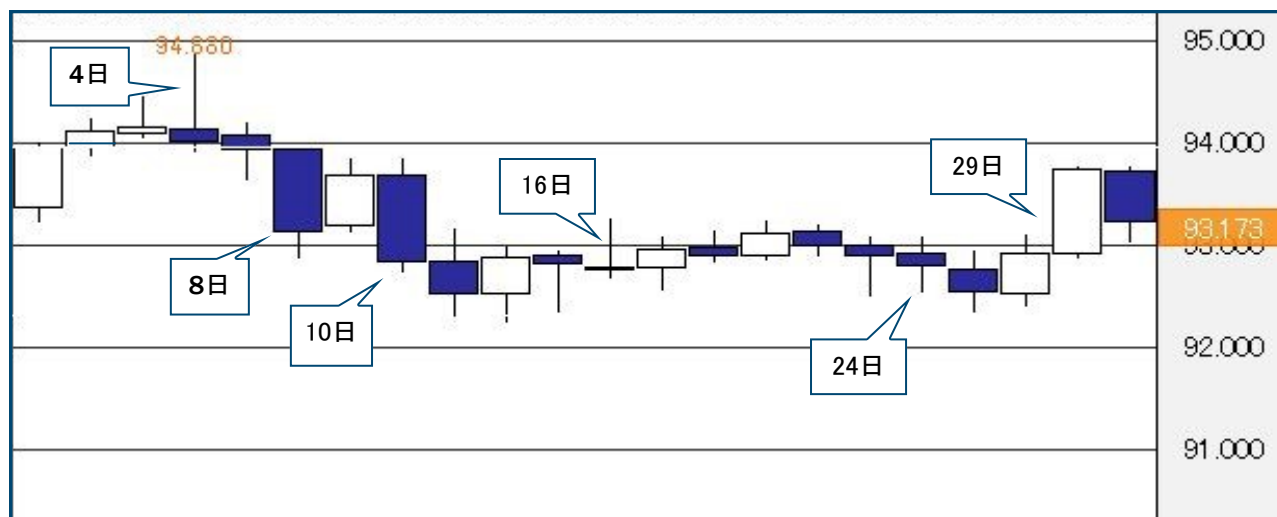
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(木)	4月米ISM製造業景況指数		5月米シガン大消費者信頼感指数・速報値
5/2(金)	4月米雇用統計	5/19(月)	3月日本機械受注
5/5(月)	4月米ISM非製造業景況指数	5/21(水)	4月日本通関ベース貿易収支
5/6(火)	3月米貿易収支		日銀金融政策決定会合(20日～発表)
5/7(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (4月7・8日分)		米FOMC議事録(4月29・30日)
5/12(月)	3月日本経常収支・貿易収支	5/23(金)	4月米新築住宅販売件数
5/13(火)	4月米小売売上高	5/24(月)	日銀金融政策決定会合議事要旨(4月30日分)
5/15(木)	日本第1四半期GDP・一次速報	5/27(火)	4月米耐久財受注
	4月米消費者物価指数		5月米消費者信頼感指数
	4月米鉱工業生産	5/29(木)	第1四半期米GDP・改定値
	5月米フィラデルフィア連銀景況指数	5/30(金)	4月日本消費者物価指数
5/16(金)	4月米住宅着工件数		5月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

CAD / JPY

カナダ/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	93.376円	94.880円	92.269円	93.236円



4日	加3月雇用統計で、失業率が6.9%に低下(前回:7.0%)し、雇用者数ネット変化も4.29万人増と予想(2.25万人増)を上回るとカナダドル買いが活発化し94.880円の高値を付けた。ところが、同時に発表された米3月雇用統計が期待したほどには改善しなかったためドル/円が下落した事や、小高く始まった米国株が下落に転じた事からカナダ/円にも下落圧力がかかり、一時94円台を割り込んだ。
8日	日銀が金融政策の据え置きを発表し、その後の会見で黒田総裁が「追加金融緩和は現時点では考えていない」「インフレ目標2%の達成に自信を持っている」などと発言すると、追加緩和への期待が剥落し円買いが優勢となった。さらに、加3月住宅着工件数が15.68万件と予想(19.20万件)を大幅に下回った事がカナダドル売りを誘い、一時93円を割り込んだ。
10日	中国3月貿易収支で輸出も輸入も大きく予想を下回った事を受けて同国の景気減速に対する懸念が再燃。これを嫌気する形でNYダウ平均が260ドル超下落する中、リスク回避の動きが活発化し92.70円台まで下値を切り下げた。
16日	中国第1四半期国内総生産(GDP)が予想を上回った事などからアジア・欧州市場で株高が進行する中、カナダ/円も上昇した。しかし、カナダ中銀(BOC)が政策金利の据え置き(1.00%)と同時に発表した声明で、2014年の成長見通しを2.5%から2.3%に下方修正したほか、ポロズ総裁が記者会見で「利下げの可能性は排除できない」などと述べた事からカナダドルは上げ幅をほぼ吐き出した。
24日	環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)をめぐる日米閣僚級協議が折り合わず、合意が先送りされた事を嫌気して日経平均株価が下落し円買いが優勢となった。さらに、NY市場序盤に一部報道で「ロシア国防相が軍に対しウクライナ国境付近での軍事演習を命令」と伝わり、リスク回避ムードが広がるとカナダ/円は下落した。
29日	ウクライナ問題をめぐり、前日に欧米が発表したロシアに対する追加制裁措置が従来の延長線上に留まる内容であった事から、ロシア株とロシアルーブル相場が上昇。欧米株価の上昇もあって資源国通貨が全般に買われるとカナダ/円は93.70円台まで反発した。

CAD / JPY

今月のポイント

4月のカナダ/円相場は92.269円～94.880円のレンジで推移し、月間の終値ベースではほぼ横ばいとなった。日銀の追加緩和観測が後退した事やカナダ中銀がハト派姿勢を維持した事が重石となった他、中国景気やウクライナ情勢をめぐる懸念など外部環境にもネガティブ要因が多かった割には底堅く推移した印象だ。強いて挙げれば、4日の加3月雇用統計の良好な結果や、17日に発表された加3月消費者物価指数が前年比+1.5%と前月の+1.1%から伸びが加速した事が下値を支えたと言えるかもしれない。

カナダ/円の月足は1月に大陰線を付けた後、2月、3月と小幅な陽線となり、4月は相場の分岐点を示すとされる寄り同値の十字線となった。5月相場では、足元の大まかなレンジである90円～95円をどちらかに抜ける可能性もありそうだ。もっとも、4月の十字線に対する見方を巡っては、戻りの鈍さを反落の予兆と捉えるべきか、反発の機を窺うための下値固めと見るかは解釈が分かれるところだろう。個人的には、カナダ経済は、隣国の米経済の復調を足掛かりにして堅調に推移する(利下げはない)と考えており、それに沿ってカナダドルも上昇する可能性が高いと見ている。それを確認する意味でも、カナダの主要経済指標の確認は当然として、雇用統計など米国の主要経済指標のチェックも欠かせない事になる。(神田)

(予想レンジ:91.200～95.700円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/2(金)	4月米雇用統計	5/22(木)	5月中国HSBC製造業PMI
5/6(火)	4月加Ivey購買部協会指数		3月加小売売上高
5/8(木)	4月中国貿易収支	5/23(金)	4月加消費者物価指数
	4月加住宅着工件数	5/29(木)	第1四半期米GDP・改定値
5/9(金)	4月加雇用統計	5/30(金)	4月日本消費者物価指数
5/12(月)	3月日本経常収支・貿易収支		3月加GDP
5/13(火)	4月中国鉱工業生産		第1四半期加GDP
	4月米小売売上高		
5/15(木)	1-3月期日本GDP・一次速報		
5/21(水)	4月通関ベース貿易収支		
	日銀金融政策決定会合(20日～発表)		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。